



雲蒸龍變

癸酉夏日

樂水

長岡
樂水

河童
学究



長岡半太郎（一八三九—一八九二）は、大阪帝国大学初代総長。日本の物理学者で土星型原子モデル提唱などの学問的業績を残した。多くの弟子を指導し帝国学士院院長などの要職も歴任した。本扁額は、理学研究科長室に飾られている。

雲蒸龍變（うんじょうりょうへん）

雲が群がり湧くのに乗じて、蛇が龍となって天に昇るの意から、英雄・豪傑が時機をとらえて大いに活躍することの譬え（出典『史記』、『日本国語大辞典』参照）。雲を得て天高く昇る龍のごとく成長・躍進し存分に活躍してほしいという、長岡半太郎から学生や教職員への期待と激励が込められていると思われる。

癸酉（みずのととり）

昭和八年（一九三三）が癸酉にあたる。大阪帝国大学が創設され、長岡半太郎が初代総長に就任したのは昭和六年であり、その二年後夏の揮毫になる。昭和八年、大学初となる入学式で、初代総長・長岡は二六五名の新入生一人一人と握手を交わした。同年は理学部授業開始の年であり、工学部発足の年でもあった。なお、現在総長室に掲げられている、同じく長岡による墨跡「勿嘗糟粕」（そうはくをなむるなかれ）は甲戌（昭和九年）に書かれているので、「雲蒸龍變」はその前年の書ということになる。

樂水（らくすい）

長岡半太郎の雅号。落款は「長岡樂水」「河童学究」。夏の海を心ゆくまま泳ぐことは、長岡の大きな楽しみであり「命の洗濯」でもあったことから「樂水」と号した。雅号「樂水」の由来について長岡は、知者は水を樂しむとする『論語』に因んだのではないと述べている。落款を「河童学究」としたのも、自らを知者と称しているのではないといわんがためであった。銜のない雅号と落款から長岡の素顔が垣間見える。

（大阪大学大学院経済学研究科資料室助手・鈴木敦子）